

大会名 Competition	第37回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-105	Year Month Day Time 2024 年 5 月 3 日 17 : 35
場 所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会  
http://ncup.snowland.net



チームA		チームB										
開志国際	<table border="1"> <tr><td>19 1st</td><td>23</td></tr> <tr><td>26 2nd</td><td>10</td></tr> <tr><td>24 3rd</td><td>22</td></tr> <tr><td>20 4th</td><td>16</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td></tr> </table>	19 1st	23	26 2nd	10	24 3rd	22	20 4th	16	OT		東 山
19 1st	23											
26 2nd	10											
24 3rd	22											
20 4th	16											
OT												
89 ○		71 ●										

主審:Crew chief  
中道 凌平 秋田  
副審:Umpire  
遠田 亘 秋田  
小玉 大地 秋田  
テーブルオフィシャル:Table officials  
能代科学技術高校

No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	清水	脩真 cap	16	0	7	2	1	4	／	松島	慎弥	5	1	1	0	0
5	×	平良	宗龍	25	5	5	0	3	5	×	瀬川	琉久 cap	18	2	5	2	3
6	×	千保	銀河	4	0	2	0	2	6	×	カンダ	マビカ サロモン	13	0	6	1	3
7		矢作	悠吏	-	-	-	-	0	7	×	南川	陸斗	7	1	2	0	1
8	／	高野	拓泉	2	0	1	0	0	8	／	小野寺	星夢	4	0	2	0	0
9		前田	ヘリ-有聖	-	-	-	-	0	9		千葉	颯太	-	-	-	-	0
10	／	池田	楓真	0	0	0	0	0	10		大本	純弥	-	-	-	-	0
11	／	小泉	俊介	2	0	1	0	0	11	×	佐藤	凪	21	2	6	3	0
12	／	中塚	遼人	2	0	1	0	0	12	／	藪	元太郎	0	0	0	0	2
13	×	高橋	歩路	17	3	4	0	1	13		川口	律	-	-	-	-	0
14	×	社	ファミケルビン シェミリー	21	2	6	3	2	14	×	中村	颯斗	3	1	0	0	0
15	／	サニ	アルカゲン ファルク	0	0	0	0	0	15		ウエタ	ブウヤ エノッカ	-	-	-	-	0
16	／	平良	奏龍	0	0	0	0	0									
17		ホーキンス	然	-	-	-	-	0									
18		磯部	大悟	-	-	-	-	0									
コーチ		富樫	英樹					0	コーチ		大澤	徹也					0
Aコーチ		津野	祐樹					0	Aコーチ		山崎	健太郎					0
		合 計		89	10	27	5	9			合 計		71	7	22	6	9

※×:スターター 〃:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P率 インシュート 2P:2P率 インシュート FT:フリースロー F:ファウル

### Score ranking [Team]

1	25	28.09%	平良 宗龍
2	21	23.60%	社ファミケルビン シェミリー
3	17	19.10%	高橋 歩路

1	21	29.58%	佐藤 凪
2	18	25.35%	瀬川 琉久
3	13	18.31%	カンダ マビカ サロモン

### Score ranking [Game]

1	25	平良 宗龍	開志国際	2	21	社ファミケルビン シェミリー	開志国際	3	21	佐藤 凪	東 山
---	----	-------	------	---	----	----------------	------	---	----	------	-----

1Q、両チームがマンツーマンディフェンスでスタート。インサイドのビッグマンをお互いが守り合い、静かな立ち上がりとなる。東山#5瀬川がジャンプシュートやドライブで加点すると、#11佐藤も得点やアシストで目立った活躍を見せ、序盤は東山がリードを奪う。開志国際は、徐々に#14シェミリーが存在感を増し、速攻などで連続得点をし、点差を詰めていく。終盤はクロスゲームとなる中、東山#6サロモンのダンクシュートもあり、19-23と4点リードで終える。

2Q、開志国際#5平良、#13高橋が2本ずつ3Pを決めるなど一気に逆転する。ディフェンスでも東山のピック&ロールからのオフェンスを守り切る回数が増え、このクォーターを10失点で乗り切る。#11小泉の速攻などで加点した開志国際が45-33と12点の差をつけて前半を終える。

3Qになると、東山は#11佐藤がジャンプシュートや3Pで得点する。開志国際は#4清水がスピードで東山のディフェンスを切り裂き、次々と得点を重ねる。東山は残り5:32、59-40となったところでたまたまタイムアウト。ここから#11佐藤がアシスト役になることで周りの選手の得点が伸び、66-55まで点差を詰める。しかし、開志国際は最終盤に#14シェミリーが3Pを決めて69-55でこのクォーターを終える。

4Qは、開志国際#5平良、#14シェミリーが中心となり一時20点差まで点差を広げる。東山も#6サロモンが#14シェミリーとの1on1を制してダンクシュートを決めると、#7南川がアングルブレイクからの3Pを決めるなど追いつがる。しかし、最後30秒で全員をメンバーチェンジするなど盤石の試合運びを見せた開志国際が89-71でこの一戦を制した。